

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームおおまち(旭橋)	評価実施年月日	平成21年2月14日
評価実施構成員氏名	六條 三上 比嘉 小谷 上北 鈴木 峰 斉藤 成田		
記録者氏名	六條	記録年月日	平成21年2月14日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	「地域に安心と信頼の輪を広げる」理念を作り上げている。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎朝のミーティング時、職員全員で理念を唱和し、理念の共有と実践を図るように努めている。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	「理念」をホールに掲示することにより、来所時にご家族や地域の人々に確認や理解して頂けるよう努めている。 又、重要事項説明書にも「理念」を謳っておりご家族への理解に努めている。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	商業地域であるため、近隣の方との交流は少ないが、当事業所の存在やグループホームであることが浸透されてきている。 ホームの看板を見て地域の方が訪問され、事業所の内容説明やパンフレットをお渡しした事もある。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に加入し、町内行事等には出来るだけ参加するように努め、地域ボランティアとの交流・支援が保たれている。 又、地域の老人会や児童会の慰問も受け入れている。	
6	事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地区社会福祉協議会事務局長との連携を保ち、地域の高齢者の方へ役立って頂けるように施設を開放している。	定期的な施設利用に向けて検討中である。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		<p>今後も、評価結果を活かして、サービス・業務の改善を図りたい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		<p>運営推進会議を事業所の行事や、昼食時等に行い、委員の方々に利用者や職員の様子、食事内容等を評価していただいているので、今後も続けていきたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		<p>研修参加の機会を増やし、職員への理解に努めていきたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見見過されることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		<p>業務推進会議にて、定期的に内部研修を行い、再確認と防止に努めている。衣類の着替え時や入浴時は特に身体に異変がないか観察に努め、異変がある場合原因を追究している。又、事業所独自の「身体拘束・虐待予防、防止自己評価表」を用いて自己評価を行っている。</p> <p>「身体拘束・虐待予防、防止自己評価表」の活用により、職員一人ひとりが自ら気づき、自ら改善を図ってゆきたい。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		<p>入居契約の際は、「契約書」「重要事項説明書」の内容を口頭で十分に説明を行い、重要事項については必ず確認・理解をして頂いている。又、解約の際も納得を得ている。「医療連携体制」は同意を得て実施している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	出来るだけご家族等との交流の機会を設け、日々の出来事も話し易い環境作りに努めている。 職員も利用者の意見に傾聴するように努め、「苦情相談窓口」や「施設オンブスマン制度」を設置して苦情受付を行っている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	ご利用者の暮らしぶりや健康状態は面会時や必要に応じて家族へ電話連絡を行っている。又、定期的に機関紙を発行しており、ご利用者の様子や新規採用職員の紹介を行っている。 金銭管理は、必要に応じて管理者が行い、毎月出納報告を行っている。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	「苦情相談窓口」や「施設オンブスマン制度」を設置し、不満、苦情等の窓口や対応を行っており、不満、苦情等があった場合は改善している。 又、苦情相談窓口のポスター等を掲示している。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営等に関する事項は定期的な会議にて報告・周知し職員一人ひとり自ら考える機会を作り、個々の職員からの自発的な意見を誘発出来るよう努めている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	医療機関受診・行事日等、状況に応じた勤務体制を行い、管理者が主にご利用者の状態変化に応じた柔軟に対応している。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	毎年、職員の意向調査を行い異動や離職を必要最小限に抑える様に努めている。 又、新規採用職員は一定期間、他の職員とペアを組んで勤務し、ご利用者に不安を与えない様に業務を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>毎月の業務推進会議にて、担当職員自ら内部研修のテーマを決め研修の機会を確保している。グループホーム協議会に入会しており、外部研修参加に努めており、自発的な研修参加も支援している。</p> <p>外部研修参加者は必ず業務推進会議にて復命を行い、他の職員への報告を行っている。</p>	<p>今後、介護実習の受け入れを検討している。</p> <p>実習生を指導する事により、自己のスキルアップを図る。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>地域包括支援センターとの連携や、グループホーム・施設研修会等へ参加し、情報交換や交流を図っている。</p> <p>市内3箇所のグループホームを見学し独自の考えやサービス内容を伺っている。</p>	<p>今後もグループホーム等の見学や交流、見学の受け入れを行いたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>毎月出来る限り、職員一人ひとりの勤務希望に応じた勤務調整を行い、状況に応じた勤務変更等も行っている。</p> <p>親睦会等も定期的に行っている。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>自ら考えたり、判断する機会を出来るだけ多く設けトレーニングし、仕事への責任感、意欲・意識向上を図るよう努めている。</p> <p>事業所は資格修得の為の援助・支援を行っている。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居に至るまでは、自宅や医療機関に赴き、ご利用者本人とお会いして不安な事柄や今後について等お聴きし、意志の疎通が困難な方は表情や様子を伺い、ご家族からお聴きしている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>利用に至るまでは、ご家族との連絡や訪問等に努め、今後不安である事や、希望されている事柄等をお話して頂ける様な関係作りに努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	早急にグループホームの入居を必要とするのか検討し、他のサービス利用を含めた対応に心掛けている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居に至るまでは、ご本人とご家族にホーム内を見学して頂き、環境や雰囲気、利用者様の過ごされている様子等を見て頂いてから、サービス利用を検討して頂いている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	ご利用者の得意とする事や自ら積極的にして頂ける事柄を大切に、職員と共に作業や活動を行っている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族との情報交換に努め、気軽に相談や助言していただけるような関係作りに努めている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	入居に至るまでのご家族との関係を職員同士共有した上で、ご家族が気軽に来頂ける環境作りに努めている。新年会や敬老会等は多くのご家族が参加して頂くようにお誘いしている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族以外の方も気軽に訪問していただける環境作りに努め、ステーション内の電話も自由に利用して頂いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	ホールで過ごして頂く時間を多く設け、他のご利用者や職員とのコミュニケーションを図り、コミュニケーションが困難な方や消極的な方も、ご利用者や職員と共に過ごして頂ける交流の場を設けている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス利用が終了しても、事業所側からは今までの関係を断ち切ることは無く、必要とするならば支援している。 地方の方が退所されて後も、住所を当ホームに暫らく置いていたケースもある。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	家庭的な雰囲気作りに努め、個々の自宅での生活リズムを継続出来るように支援し、嗜好品や、必要な物品は希望に応じて購入している。又、思いや意向の把握が困難な場合は、ご家族からの助言を得ている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に、関係機関やご家族からの情報提供により把握し、入居後もご本人やご家族からのお話からも把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々の過ごし方を個々に把握し、変化がある場合は体調の確認・他のご利用者等との関係の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護支援専門員が中心となり、カンファレンスにて介護職員との話し合いを設け、多数の意見を元にして介護計画を作成している。		日時を設定して、家族や必要な関係者と話し合いをもつ機会を作ることは難しいと思われるが、面会時等に、助言等を頂ける様に努める。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3ヶ月に1度、介護職員とのカンファレンスに基づき介護計画の見直しを行っている。又、心身の状態に変化があった場合は、介護計画の見直しを行う。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人記録やミーティング、随時報告により心身の状況把握に努め、情報を共有して統一したケアに努めている。介護ノートを利用し情報の共有を図っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ご利用者の医療機関への受診や往診は職員が柔軟に対応し、嗜好品や、必要な物品購入は希望があればご本人同行で買い物に出掛けている。又、理容も月に1回程度の訪問サービスを利用して頂いているが、2社の内どちらかを選択して頂いている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域ボランティアの協力は定期的に継続されており、地区社会福祉協議会との連携を保ち、老人会等の交流や、児童会との交流も行っている。治安に関わる事は随時地域の警察に相談している。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	ご本人やご家族の希望により、医療機関の往診の受け入れや、定期的な看護師の訪問によりご利用者全員の健康チェックを行っている。ご本人の希望により月に1回程度理容の訪問サービスを利用して頂いている。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターと必要に応じて連携、相談・情報提供を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居後も、申し出がない限り入居される以前から利用されているかかりつけ医の受診継続を基本としている。ご本人の希望に応じた医療機関受診や状況に応じて職員が受診の代行を行っている。 又、医療機関との連携により、24時間体制でご利用者の健康管理を支援している。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医以外にも、認知症状に関して認知症の専門医への受診や相談を行っている。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	医療機関との連携により、定期的に専属の看護師がご利用者の健康チェックを行っており、ご利用者及び職員との関係も良好である。 又、24時間体制でご利用者の健康状態についての連絡窓口が確保されている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院された場合、定期的に面会に伺い、ご本人の様子・病状の把握を行い、MSW・看護師・ご家族からの情報収集に努め、ホーム側も常に受け入れ準備をし、早期退院できるようにアプローチしている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	看取りに関する指針を定め、契約時にご利用者・ご家族へ口頭にて説明している。 又、職員会議にて定期的に再確認している。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	ご家族・医療機関の関係者とホームの管理者にて看取りに関する話し合いの機会を随時設けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>ご家族が住替えに納得された上で、関係者への出来る限りの情報提供やご本人・ご家族に対して不安の無いように話し合いを行っている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>ご利用者一人ひとり、声掛けや対応に留意し不安や混乱を抱かないように努めている。 又、「接客・マナー」についての外部研修へ参加し、全職員への復命し再確認を行っている。 個人記録等、プライバシーに関わる記録等は、指定の場所に保管している。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>ご利用者の意見や要望の傾聴に努め、個人個人の判断や決定を尊重するように努めている。意思疎通が困難な方は、表情を読み取るようにしている。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>曜日によっての基本的な日課はあるが、ご利用者の体調、意見や要望があれば変更や中止をして、希望にそった支援を心掛けている。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>ご利用者のTPOに応じた整容に気配りを行い、理美容は2社の訪問サービスの中から選択して頂いている。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>ご利用者に材料の下準備をして頂いたり、食後の食器洗いのお手伝いや後片付けを職員と共にして頂いている。 毎月手作りおやつの日を設け、ご利用者と職員が共に楽しみながらおやつ作りを行っている。 昼食時は、職員もご利用者と食卓を囲んで食事をし、交流している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	ご利用者の嗜好を把握し、ご本人からの希望や、食事摂取状況の応じて嗜好品を購入し、好きな時間に食べて頂ける様に出来る限りご自身で保管していただくようにしている。 又、ご家族等が面会された時、持参された食事を共に居室でして頂いている。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンの把握、排泄表の確認によりトイレでの排泄を支援している。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	その日の体調や、気分により、入浴日の変更を随時行っている。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	昼夜問わず、ご本人の希望や体調により居室で休息して頂いている。寝付けない時は職員と共に過ごすなどしていただいている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	ご利用者の得意な事柄に気づき、共同生活の場でそれを発揮していただけるように支援し、出来ることをお願いして役割をもった日々の生活を支援している。		今後、セラピードッグの慰問を検討中である。
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族から要望が無い限り、ある程度の現金は自己管理していただき、買い物時にご自分で支払いして頂いたり、ショッピングに出掛けたりしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	お花見やショッピング、屋外昼食会や散歩等、屋外で過ごす機会を設けている。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	施設のバスを利用しての遠方への外出を行っている。ご家族等との外出・外泊を支援している。		外出の機会をもっと増やし、季節感を味わい、気分転換を図りたい。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	ステーション内の電話の使用、手紙のやり取り等は自由にさせていただいている。		以前はご家族へ手作りの年賀状を送ったりしていたので、今後も年賀状や暑中見舞いを送っていただけるように支援したい。
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族やお知り合いの方等に気軽に訪問していただいている。訪問時は、ホールや居室内で気兼ねなく過ごしていただいている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指 定基準における禁止の対象となる具体的な 行為」を正しく理解しており、身体拘束をしな いケアに取り組んでいる。	身体拘束の外部研修受講職員が、指導を行っており、カンファレンス等でも身体拘束 について話し合っている。 内部研修により、「言葉による身体拘束」も再認識している。 「身体拘束・虐待予防、防止自己評価表」を活用している。		ご利用者に対する言葉がけを常に留意して業務を行う。
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄 関に鍵をかけることの弊害を理解しており、 鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室は内側からは施錠できるが外側からは施錠していない。 階段からの転落事故防止の為、玄関は施錠している。		職員の見守りにより、玄関の開錠に努めて行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	居室内で過ごされている場合も声掛け等行い、様子を伺い安全確認を行っている。夜間帯は職員はホールにて待機・業務を行い安全に配慮し定期的に居室内の巡回を行っている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	随時、ご利用者の状況に応じて注意の必要な私物を保管しており、備品は決められた場所で保管・管理している。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	内部研修等で事故防止の再確認をし、事故の再発防止のために「事故報告書」の提出及び、事故の内容の確認・職員間でのリスクの共有を行っている。「リスクマネジメント委員会」を設置し事故予防、改善に努めている。防火に関しては、「防火管理者」を配置している。事業所独自の「行方不明時のマニュアル」を作成し、全職員へ周知している。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	自発的な救急救命講習受講や内部研修により、学んでいる。		勤務内での救命講習受講や当事業所内での消防署による救急救命講習を検討中である。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	定期的に設備会社の立会いのもと消防避難訓練を行い、訓練を行う際には、ビルの住民にも参加を呼びかけている。定期的な設備の点検、各関係機関の審査を行い、防火管理者を配置している。		ビルの住民に積極的な消防避難訓練参加をしていただきたい。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	リスクがある場合ご家族へ報告し、その上でご利用者を尊重した支援やその対応方法によるリスクについても理解していただくように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>		
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>		
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>		
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		

ご利用者の体調変化時は、速やかに管理者に報告し、随時連携している医療機関へ報告・指示を得ている。
その情報は記録や引継ぎより、共有している。

ご利用者の内服薬は個別に施錠できる場所に保管し、「薬の説明書」も個別にファイルして直ちに確認出来る様にしている。内服薬が変更した場合、口頭にて伝達し記録にも残し情報を共有している。

適量の水分摂取に努めて頂き、乳製品の提供を行っている。
慢性的な便秘の方は医療機関にて内服薬を処方していただき、排便をコントロールしている。

毎食後、口腔ケアを行い、就寝前に義歯の洗浄を行っている。
口腔内の診療や義歯等の調整は歯科医師の往診を利用している。

食事の献立は栄養士が栄養バランスを考えて行い、食事摂取量や水分摂取量は個別に記録・チェックしている。
嚥下状況に応じた食事形態や体調変化時、嗜好を考慮した対応を行っている。

ご利用者のインフルエンザ予防接種は、ご家族の同意を得て全員接種しており、同時に職員の予防接種も事業所の負担により行っている。疥癬やノロウイルス等の感染症については毎年、内部・外部研修にて学んでいる。
又、感染予防の為にご利用者・来所者の手指消毒やペーパータオルの使用、次亜塩素素による消毒を行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>台所では専用のスリッパを使用し、毎日まな板や布巾等の消毒を行っている。台所周りも随時清掃を心掛けている。</p> <p>食材はほぼ毎日業者から納品され、その都度検品しており、不良な物があれば返品・交換している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関前は専用の駐車場になっており、出入りや容易で、専用のエレベーターが設備されている。</p>		<p>当ホームは、ビルの2階部分にあり、看板を設置しているが若干解りづらいので、再度看板を検討中である。</p>
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>ホールには、寛いでいただく為にソファを置き、ご利用者手作りの作品や季節感のある装飾を行っている。</p> <p>不快な音や光を感じることは無く、調理時は食欲を誘う匂いが漂ってくる。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>思い思いにホールのソファ等を使用していただき、共に交流していただいたり、自分一人での時間も過ごしていただけるように支援している。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>備え付けのベッドやクローゼットはあるが、希望に応じてベッドを外し布団を使用していただいたり、自宅で使い慣れた物やテレビ、冷蔵庫等を持ってきていただき、心地よく過ごしていただいている。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>冷暖房機による温度調整や給排気システムによる空調管理をおこなっている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>建物内は各所手摺りを設置し、車椅子が行き来出来るように配置し、又トイレ内は車椅子が方向転換できるようにスペースを確保している。 専用エレベーターの設置、バリアフリー、クッションフロアーの使用、居室の戸のガラスは樹脂製となっている。</p>	
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>混乱を招く場合は、物事はシンプルに行い判断力の低下防止を図り、状況に応じた声掛けや支援により混乱を解決できるように努めている。</p>	
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>駐車場にて食事会を行ったり、日光浴がてら屋外で洗濯物を職員と共に干したり、散歩や外回りの清掃等を行っている。</p>	

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている</p> <p>大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

食事の献立や、食材配達は委託業者と契約しており、栄養管理・安全な食材調達を行っている。
 法人内には複数の高齢者福祉施設があり、事業所間での連携によりサービス利用の充実や、他施設での行事参加等図っている。

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームおおまち(大雪)	評価実施年月日	平成21年2月14日
評価実施構成員氏名	鎌田 作田 江場 大場 宇野 堀井 熊谷 伊吹 安藤		
記録者氏名	鎌田	記録年月日	平成21年2月14日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>法人統一の理念があり、地域との関わりを大切にしている理念を作り上げている。</p>		
<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>毎日のミーティング時に経営理念を共有し、同じ目的を持って日々取り組んでいる。</p>		
<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	<p>理念の掲示はしているが、地域の方々への浸透は不十分である。</p>		<p>理解を深めていただくために回覧板利用の再検討を行っていきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
<p>隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>回覧板、散歩等でお会いした時等、声を掛け合っている。</p>		
<p>地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会の一員として、地域の行事に参加している。</p>		
<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>電話や来所されての困りごと相談に対応している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を行うことにより再認識し、サービスの向上につながっている。		
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議で話し合われた内容についての浸透はうすい。		職員も運営推進会議で話し合われた内容を把握し、サービスの向上に努めたい。
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	困った時など担当者に教えて頂いている。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	研修で学んでおり、今後利用者様に必要になった時は活用したい。		
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修で学ぶ機会をもち、防止に努めている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ご家族様のお話を聞き、不安を解消して頂けるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者様の不満を受け止め、反映出来るように職員間で話し合いをしている。		
に 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	面会時に近況報告を行い、変化があった時はすぐに連絡し、報告している。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時、ご家族様にサービス提供のこと、また施設に対して何かありませんかと尋ね、改善すべきところは直している。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月の会議の中で提案等を出してもらい、実行するよう努めている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	入浴日、行事等利用者様の日程に合わせた職員配置が出来るように努力している。緊急時は管理者が対応している。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	離職される方は数名いましたが、職員の大幅な異動はなく、馴染みの職員の支援が受けられるよう配慮しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	内部研修はもとより外部研修にも参加しており、復命している。	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	他の施設を訪問させて頂き、サービスの質の向上を高めている。	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	親睦を図る機会を作り発散してもらえるようにしている。	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	業務推進会議やカンファレンス等で利用者様の症状や対応を話し合い、職員の向上心につながるよう努力している。	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	困りごとやしてほしいこと等を聞き、受け止めている。	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	面会時には必ず、何かありませんかと尋ね、解決に向けて努力している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	当事業所での対応が困難な時は地域包括支援センターや他事業所への紹介を行っている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	雰囲気を見て頂くため事前に見学してもらい職員と利用者様との関わりを見て頂くよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	利用者様が生活して来た中での衣、食、住について教えて頂いている。また助けられたり労っていただいたりと共に支え合う関係を築いている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会時に生活の様子をお話しし、喜怒哀楽を共にしている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご家族が遠慮なく気軽に来られるように支援している。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの深い方に遊びに来ていただくなど関わりを継続出来るようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	個々の性格や生活環境の違いから仲良くしていても一寸したことで険悪な状態になることもあるため職員が仲裁に入り孤立しないように努力している。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去後も相談事があった時には連絡頂けるような関係を大切にしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	希望や意向を受け取め、その人らしい暮らしが出来るように支援している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活暦などご本人やご家族からお聞きし又毎日の会話の中からも引き出せるよう努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	経過記録等で過ごし方が把握出来るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご家族様やご本人からの希望を聞き、また変化等をカンファレンスで話し合い、意見を出し合い計画に反映している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	利用者様の变化に応じて現状に合った計画を作成している。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	経過記録等に記入している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ご本人、ご家族様の希望に応じ支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティアの協力や世代間交流の協力を頂いている。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	必要に応じて連絡や相談等行っている。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターで関わっていた方が当事業所を利用されている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医と連携し、健康管理に努めている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	必要な利用者様には専門医の受診を行っている。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	連携している医療機関の看護師により健康管理を受け状態に応じて相談、支援を行っている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院後は担当看護師やMSWと連絡を取り退院後の受け入れについて調整を行っている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	身体状況の変化を十分に把握し、ご家族様の意向も伺い主治医に伝えて確認を取っている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	日々の身体状況の変化に応じて主治医と相談し、ご家族様と話し合うように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>ご家族様と話し合い転居先の関係者へ情報提供しご利用者様の環境の変化のダメージ防止に努めている。</p>		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>一人ひとりに合わせた言葉がけに配慮し、個人情報の取り扱いにも充分注意している。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>ご本人の自己決定を最優先し、関わっている。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>一人ひとりの生活リズムを大切に、ご自分のペースで生活出来るように支援している。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>定期的に訪問理容を受けている。季節に合った身だしなみが出来るように、ご本人に選んで頂いている。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>職員ともやしのひげ取り、野菜の皮むき、食器洗い、テーブル拭きなど楽しみながら行って頂いています。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	ご家族の面会時には、ご本人の好みの物を一緒に召し上がっていただいている。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人ひとりの排泄パターンにあわせてトイレ誘導している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	週2回入浴し、楽しんで頂いている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	体調に合わせて休憩や睡眠をとって頂いている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりの力に合わせて食器洗いや、食器拭き、テーブル拭き、洗濯物、おしぼりたたみを行い過ごして頂いています。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ショッピングの際は、ご利用者様がご自分で支払い出来るように支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	ご利用者様の希望を極力叶えるよう、職員と一緒に買い物や散歩の支援を行っています。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	花見、苺狩り、初詣など外出する機会を企画している。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	希望時は電話をし、代筆の支援を行っている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	気軽に訪問出来るように笑顔で対応し、また居室でゆっくり過ごして頂けるように配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の理解をし、ケアに取り組んでいます。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	帰宅願望の強いご利用者様がおり危険防止のため止むを得ず玄関は施錠している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	一人ひとりの様子や行動を把握しながらプライバシーを守り、見守り介助を行なっています。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	薬品や洗剤、刃物等の注意の必要な物品については管理方法をきめて保管している。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	一人ひとりの状況を把握し、事故防止に取り組んでいます。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	個々に応急手当の講習をしたり、施設ではマニュアルを作成し、全員に配布、周知徹底している。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	定期的に職員、ご利用者様で火災を想定した訓練を行っています。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	ご家族様が面会時に色々なリスクが発生することを説明し、理解していただいている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>		
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>		
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>		
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	まな板等の調理用品は毎日消毒し、衛生管理に徹底している。また食材や業者により納品されたものは鮮度を確認後チルドで保存している。更にエプロン、スリッパの交換は徹底している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	玄関には植木を置き、花を飾るなどして、明るい雰囲気作りに努めている。		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	ホール内には生き生きとした写真を貼り、また季節の花等を飾り居心地良く暮らせるように努めている。		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	ソファや食堂等好みの場所で過ごして頂いている。		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	ご家族様と相談し、利用者様にとって必要なものを持ち込んで頂き過ごしやすい環境作りに努めている。		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	定期的に換気している。また湿度を保つため加湿器を設置しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>施設内はバリアフリーであり手摺り及び介助バーの設置により安全に生活できるように配慮している。また床はクッションフロアの素材を使用している。</p>	
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>職員が側に寄添うことで混乱や失敗を防ぎ安心して暮らせるように支援している。</p>	
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>利用者様が屋外で楽しめるような花や野菜を植えて楽しんで頂くなど活動の充実には至っていない。</p>	<p>花や野菜を植え、水やりや収穫を職員と一緒に楽しめるように支援したい。</p>

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ほぼ全ての家族 家族の2/3くらい 家族の1/3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている</p> <p>大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

定期的に職員と一緒に手作りおやつを作って楽しんでいただいています。また、職員はご利用者様やご家族様との信頼関係が出来ており、面会時には明るく和気あいあいと会話されています。施設内は明るく雰囲気が良いです。